

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	470500513
法人名	気仙沼市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム 桑の実
所在地 (電話番号)	気仙沼市唐桑町又越349-19 (電話) 0226-32-3822

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 8人, 非常勤 0人, 兼務 0人	常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	高熱水費 500 円/日額
敷金			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低 77歳	最高 87歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野医院 佐藤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの運営は社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会で、旧唐桑町時代に開発された福祉の里と呼ばれる広大な敷地の中にあり、静かな環境で眺めも良い。周囲は自然豊かで漁村が並び近くに四季折々に楽しめる場所も多く、敷地内には市支所施設や他の福祉施設が点在している。このホームは旧町が設立時に町民の負担は少なくということで利用料は低くおさえられ、職員も両親が入れるホームにと介護業務に熱意を持ち、働きながら資格取得やケアの質の向上にと勉強している。「くらしの中に笑いあり、のんびりゆったりみんなで・・・そんな思いを大切に『我が家』づくりを目指します。」のとおり、地域に溶け込んだホームを目指し努力している。

社会福祉協議会

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部)
	運営理念の啓発については地域交流で徐々に理解されて来ているし、介護計画の見直しについても3ヶ月に1回見直されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取り組みは、始めスタッフ全員に全体の説明があり、次に自己評価の項目をスタッフ全員にブロック分けしてそれを各自が記入、その後全員で全体を検討まとめは管理者が行うという形で進められた。その過程で色々な事に気づかされ、特にブロック分の記入は大変だったが勉強にもなったとのことである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ開催回数が少なく一方的な会議にとどまっているので早い進展を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、要望等の対応は入居者本人のケアに関する事が多く、例えばトイレの場所の問題で入居者が家に帰りがたったりして、その対応を家族と何度も話し合い色々な方法を実行してクリアーしたりしている。また設備的な面も不備な所は色々検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域や地元地区との日常交流は徐々に広がって来ているが連携とまでは進んでおらず、今後ホーム側から地元へ飛び込んで近隣の人達をホームに呼び込むことを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は職員全員で考え、独自のものとなっているが開設後理念の検討は無く、理念の中に地域で暮らす大切さも盛り込みたいと検討されているのでぜひ実行していただきたい。	○	入居者の状況やニーズに合わせて地域で暮らすことの大切さを踏まえた理念となるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービス提供の場で職員が理念を共有してケアに取り組むことが理解されていて、言葉掛け・態度に常に理念の実現に向けた取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域交流の機会があれば常に参加し、行事やイベントで多くの人々と交流していてボランティアの人達も定期的に来ているが、ホーム内の色々な行事等に地域住民の方々にも来てもらう方策も検討されているので期待したい。	○	自治会から公報は届くが地区の会合などにはまだ参加したことが無いとのことなので、運営推進会議等を活用して地元地区との交流をさらに進めていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価・外部評価の意義・活用を理解していて、できていなかった点・気づいていなかった点等改善計画を立て改善に向けた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は色々の事情で開催回数が少なく内容もホームからの報告・説明事項にとどまり、サービス向上には活かしきれていない。	○	開催が色々の事情でのびのびになってしまったようだが、出来るだけ2ヶ月に1回の開催を目指して努力し、双方向的な会議になるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に対してはホーム側から理解や支援の働きかけをしているし、色々の交流にも参加してサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態については家族の来訪時に報告し話し合いを行ない、金銭管理についても毎月確認してもらっている。来訪の難しい家族については電話等で月1回状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の苦情相談窓口の対応や家族交流会・アンケート等で色々の要望や不満をとらえ、その対策を立てて実際にやっている。その結果を職員、家族で話し合い、さらに良い方法を見つける努力をして運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は入居者と職員が家族のように馴染む関係が大切である事を把握しており、異動や離職に関しては入居者への影響も最小限に抑える配慮をしている。		
5 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気仙沼本吉地方介護サービス連絡協議会に加盟し、その中のグループホーム部会や全体会の研修・交流に参加している。また、社会福祉協議会や地域医療研修会等にも参加し、内部報告会も行われて全員が働きながら学ぶことが出来るよう機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前記連絡協議会に加入しているのでグループホーム研修会等が年数回開催され、ネットワークづくりの勉強会やホーム相互のイベント・交流会等に参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者には入居開始前に管理者が面会し、ホームの説明をしてホームを見てもらい、その雰囲気徐々に馴染んでもらうよう家族と相談・工夫して、納得してもらってから入居開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から現在あるいは昔の生活、得意な事等を教えてもらうよう心がけ、訪問時もわからない事は入居者から色々の話を教えてもらっていて、共に暮らす中で常に感謝の気持ちを言葉や態度であらわすよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思うような暮らし方をしてもらうよう心がけ、希望で新聞や牛乳をとったり本屋に出掛けたりと各自のペースに合わせた取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・その他の人の話や情報、意見を取り入れ、入居者が地域でその人らしく暮らしつづけるために必要な個別の介護計画が作成されている。面会時には必ず家族と話し合い、意見・要望等を聞き出している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は介護計画を見直し家族に渡し説明して同意の印をもらっている。家族とは変化がある時はその都度、何も無い時でも月1回は連絡をとり意向を確認して、評価に基づいた介護計画が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出・外泊等家族の要望に応じ必要な支援は柔軟に対応されている。今後の課題として近隣の高齢者の状況に応じたショートステイ等の受け入れも検討願いたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は全員今までのかかりつけ医を受診しており、歯科・眼科等は必要に応じて本人の意向に添って受診している。受診の時はバイタルチェック表や本人の健康状態を記録した書類も持って行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者は軽度の人が多いせいもあり、重度化した場合の対応や看取りの支援等の方針は無く、職員間の意思の統一もなされていない。したがって家族との話し合いも行われていないので出来るだけ早く方針を立て、家族・関係者等との話し合いを持たれる事を期待したい。	○	家族の安心や考えを知る上でも早い段階からの重度化の対応や看取り支援の対応等の方針を立て、家族・関係者と十分話し合いを行っていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重した呼び方で対応をし、居室の出入りの了解、個人記録等の取り扱いもきちんとされている。ただ、浴室と一部トイレの入口が余りにも食事室・ホールに近く、利用しにくいと言う問題があり、気兼ねなく利用できるような色々検討されているのでぜひ実現していただきたい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴・食事時間など、入居者のその日の状況に応じて本人ペースで暮らせるよう柔軟に支援されており、ひとりで食事を希望される時は職員も付き合っ居室で食事している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材その他の買い物から調理・食卓の準備や食事の後片付け等入居者と職員で一緒に行い、食べやすいメニューや嗜好にも配慮されて楽しい食事雰囲気となっている。サポートもさりげなく行われている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日していて夜間に入る方もおり、一人ひとりの意見を尊重して湯かげん入浴の順番から時間帯・洗身の仕方等、希望に合わせて入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	色々の趣味や特技を中心に楽しみごとの支援をしていて、町の文化展にも押し花・折り紙・きめ込み等の手芸作品を展示したりしている。また、活動支援時には昔の話を回想したりして、職員も一緒に楽しんで喜びと張り合いのある日々を過ごせるようにしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって馴染みの店に出掛けたり、発売日の本を買いに行ったり、また馴染みの場所や好きな場所に出掛けたりと出来るだけ戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけることはなく、職員も入居者一人ひとりの様子や行動を把握している。また、周囲の人達も見守りに協力的で色々と連絡をもらったりしている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いで避難訓練を行い避難通路の確保や消火器の点検、各居室内の点検等を受け、注意点の改善に取り組んでいるが、さらに運営推進会議等を活用して、近隣住民の訓練参加と、すぐ近くに避難所はあるが非常時用品の確保の検討もお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事摂取量や水分量・排泄回数等がチェック表で把握されていて、栄養バランスを含めた献立表を市の管理栄養士に定期的に見てもらい助言をもらっている。入居者の体重測定は毎週月曜日に行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の室内の照明は場所によって工夫され、不快な光や音は無く温湿度もよく管理され換気もゆきとどいている。家族的で見慣れたものを利用し、生活感や季節感に配慮して居心地よく過ごせる空間作りに努力している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具類をはじめ身近な物を居室に置き、入居者それぞれの個性に合わせ家族とも相談して、居心地よく安らぐ居室となるよう工夫支援している。		